

令和5年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【西原小学校】

⑥ 次年度への課題と改善策	
知識・技能	中位層の学力を引き上げるためには、児童一人ひとりの多様なつまずきに応じるとともに、各自の学びやすい環境を整えることが必要不可欠であるが、教師一人でそれぞれの学習スタイルに対応するのは無理がある。そこで、児童自身が「課題解決に向けた集中力」を高め、児童自身の手で「課題解決が捗る環境」を協働して整える授業をこれまで以上に推進する。加えて、基礎・基本の反復練習の仕方などの具体的な「学び方」が身に付く学習活動を充実する。
思考・判断・表現	学習者が多様な考え方にふれながら試行錯誤する授業をより一層推進することで、失敗を気にせずに考えることの楽しさや、互いの考えを学び合うよさを体感できるようにする。表現方法の工夫や効果的な情報活用などの「学び方」が身に付く学習活動をより充実することで、安心して自分の考えを表現できるようにする。
主体的に学習に取り組む態度	学習者に「学びの選択肢」を用意する授業の推進と、ICTの活用を含めた多様な「学び方」と「情報活用能力」の習熟を図る学習活動の充実、一定の成果が見られた。安易に「わかった・できた」を追い求めるのではなく、一人ひとりの児童が「やりがい」と「手応え」を感じながら、責任をもって学びを自ら前に進める授業づくりを進めていく。

① 目標・策		
	目標	策
知識・技能	令和5年度全国学力・学習状況調査における「平均正答数別人数割合の全国との差」について、上位層のピークと中位層のピークの差を5問以内にする。	⇒ 学習者が「課題解決に向けた集中力」を高める授業を推進する。基礎・基本の反復練習の仕方や知識・技能を高めるための情報活用の仕方などの「学び方」が身に付く学習活動を充実する。
思考・判断・表現	令和5年度全国学力・学習状況調査の記述式問題について、無答率の割合を5%以下にする。	⇒ 学習者が多様な考え方にふれながら試行錯誤する授業を推進する。表現方法の工夫や効果的な情報活用などの「学び方」が身に付く学習活動を充実する。
主体的に学習に取り組む態度	令和5年度全国学力・学習状況調査の質問項目「授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた」について、肯定的な回答の割合を90%以上にする。	⇒ 学習者に「学びの選択肢」を用意する授業を推進する。自ら学びを進めるための「学び方」を身に付け、ICTの活用を含めた「情報活用能力」の習熟を図る学習活動を充実する。

<小6・中3>(4月~5月)

⑤ 目標・策の達成状況		評価(※)
知識・技能	令和5年度さいたま市学習状況調査における「平均正答数別人数割合の市全体との差」について、上位層のピークと中位層のピークの差が4問以内だったのは、全12種目中、7種目にとどまった。どの学年も国語は比較的良好な結果だが、算数では学力差がみられる。	C
思考・判断・表現	令和5年度さいたま市学習状況調査の「思考力・判断力・表現力等」を問う問題において、無答率の割合は、全体で1.1%だった。学年別にみると、小5・小6は1%を下回っている一方、小4は2%を上回っており、大きな課題がみられる。	B
主体的に学習に取り組む態度	令和5年度さいたま市学習状況調査における「授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた」の質問に類する項目について、肯定的な回答の割合が90%以上だった学年は、3学年であった。下回った学年についても、僅差であり、児童に自主性や主体性が育まれているといえる。	A

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)

② 全国学力・学習状況調査結果・分析	
知識・技能	「平均正答数別人数割合の全国との差」について、国語と算数ともに、上位層のピークと中位層のピークの差が4問(国語14問中：上位層のピーク13問、中位層のピーク9問。算数16問中：上位層のピーク11問、中位層のピーク7問)で、目標を達成した。引き続き、中位層が上位層により近づくよう、課題解決のモチベーションが高まるような授業展開の工夫と、児童一人ひとりの学習スタイルに応じた「学び方」が身に付く学習活動を推進する。
思考・判断・表現	記述式問題(国語3問、算数4問)における無答率の割合は、平均3.8%で、目標を達成した。しかし、個別の状況を見ると、5%を上回っているものが計2問(国語1問、算数1問)あり、教科別平均では、国語5.6%、算数2.4%で、改善の余地がある。日々の授業において、まず考えを書き、それを改善・改良していくという、試行錯誤を前提とした学習をより一層推進する。
主体的に学習に取り組む態度	質問項目(33)「5年生までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」について、肯定的に回答した児童の割合は92.9%(さいたま市90.3%、全国78.8%)で、目標を達成した。肯定的な回答の内訳を見ると、「当てはまる」が34.7%、「どちらかといえば、当てはまる」が58.2%だったので、「当てはまる」と回答する児童が増えるよう、「アクティブ・ラーニング」の視点からの授業改善をより一層推進する。

- ①結果分析(管理職・学年主任等)
- ②詳細分析(学年・教科担当)

④ さいたま市学習状況調査結果・分析 ※令和5年度のさいたま市学習状況調査結果は参考値扱いとなります。			
小3	「平均正答数別人数割合の全国との差」について、国語は上位層のピークと中位層のピークの差が2問だったが、算数は6問だった。「思考力・判断力・表現力等」を問う問題における無答率は、平均1.6%だった。質問項目(33)「授業で、学級の友達との間で話し合う活動では、話し合う内容を理解して、相手の考えを最後まで聞き、自分の考えをしっかりと伝えていくと思いますか」について、肯定的に回答した児童の割合は94.7%(さいたま市91.7%)だった。	小4	「平均正答数別人数割合の全国との差」について、国語は上位層のピークと中位層のピークの差が2問だったが、算数は5問だった。「思考力・判断力・表現力等」を問う問題における無答率は、平均2.7%だった。質問項目(33)「授業で、学級の友達との間で話し合う活動では、話し合う内容を理解して、相手の考えを最後まで聞き、自分の考えをしっかりと伝えていくと思いますか」について、肯定的に回答した児童の割合は88.8%(さいたま市92.5%)だった。
小5	「平均正答数別人数割合の全国との差」について、国語は上位層のピークと中位層のピークの差が4問、理科は3問だったが、算数と社会は6問だった。「思考力・判断力・表現力等」を問う問題における無答率は、平均0.7%だった。質問項目(37)「これまでの授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」について、肯定的に回答した児童の割合は96.2%(さいたま市90.8%)だった。	小6	「平均正答数別人数割合の全国との差」について、国語と理科は上位層のピークと中位層のピークの差が4問、算数は3問だったが、社会は5問だった。「思考力・判断力・表現力等」を問う問題における無答率は、平均0.5%だった。質問項目(37)「これまでの授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」について、肯定的に回答した児童の割合は93.8%(さいたま市90.1%)だった。

③ 中間期見直し(全国学力・学習状況調査結果分析後)		
	目標	策
知識・技能	令和5年度さいたま市学習状況調査における「平均正答数別人数割合の市全体との差」について、上位層のピークと中位層のピークの差を4問以内にする。	⇒ 引き続き、「課題解決に向けた集中力」を高める授業を推進するとともに、児童一人ひとりの学習スタイルに応じて、基礎・基本の反復練習の仕方などの「学び方」が身に付く学習活動を充実する。
思考・判断・表現	令和5年度さいたま市学習状況調査の「思考力・判断力・表現力等」を問う問題において、無答率の割合を1%以下にする(記述式問題が無いため)。	⇒ 引き続き、学習者が多様な考え方にふれながら試行錯誤する授業を推進する。表現方法の工夫や効果的な情報活用などの「学び方」が身に付く学習活動を充実する。
主体的に学習に取り組む態度	令和5年度さいたま市学習状況調査において、「授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた」の質問に類する項目について、肯定的な回答の割合を90%以上にする。	⇒ 引き続き、学習者に「学びの選択肢」を用意する授業を推進する。自ら学びを進めるための「学び方」を身に付け、ICTの活用を含めた「情報活用能力」の習熟を図る学習活動を充実する。